

平成21年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2010


新潟県長岡市教育委員会

平成21年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2010

新潟県長岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立って実施した試掘・確認調査のうち、平成21年度国庫・県費補助金の交付を受けて実施した調査の報告である。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、1を田中、その他は各調査担当者が分担した。編集は丸山が行った。図版などの作成は一部で整理事業員の協力を得た。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 土層柱状図における  は遺物包含層を示す。
6. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
7. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方からご協力、ご教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。

越後ながおか農業協同組合 小国土地改良区

小国西部地区ほ場整備推進委員会 小国北部地区ほ場整備推進委員会

上岩田地区ほ場整備推進委員会

長岡地域振興局地域整備部与板維持管理事務所

長岡地域振興局農林振興部農村計画課・農地整備課 三島郡北部土地改良区

石坂圭介 駒形敏朗 長澤展生

目 次

1	平成21年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2	八幡林遺跡確認調査	4
3	島崎地区試掘調査	8
4	坂谷遺跡確認調査	11
5	坂谷金山遺跡確認調査	12
6	浦萱場地区確認調査	13
7	飯塚原A遺跡確認調査	14
8	小国北部地区試掘調査	16
9	小国西部地区試掘調査	17
10	上岩田地区試掘調査	18
11	長岡城跡確認調査	21

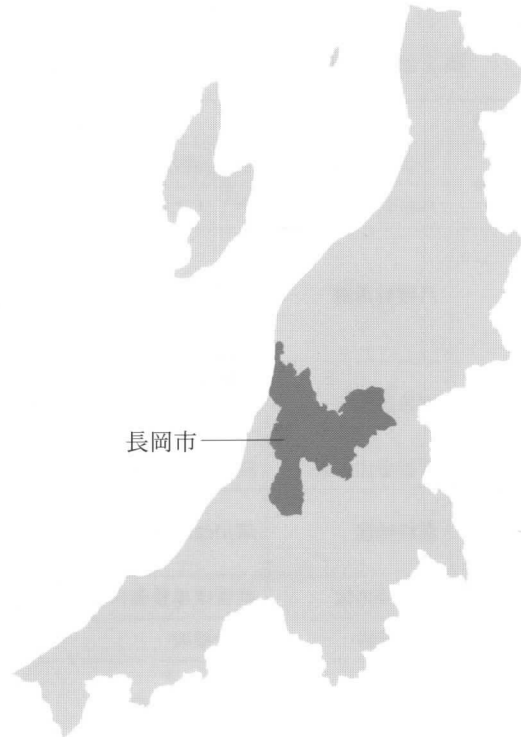
1 平成21年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

(1) はじめに

長岡市は新潟県のほぼ中央に位置し、「長岡」「中之島」「越路」「三島」「山古志」「小国」「和島」「寺泊」「栃尾」「与板」の10地域で構成されている。本市の行政面積は、新潟県全体の約7%にあたる840.9km²に達しており、その中に約28万人の人々が暮らす、中越地方では最大の都市である。

地形的には、市の中央部を日本一の長さと流量を誇る「信濃川」が縦貫し、その両岸には大河に育まれた肥沃な沖積平野が形成されている。新潟平野の南端をなすこの沖積地の東西には、東山丘陵および西山丘陵と通称される東頸城丘陵が、それぞれ連なる。東山丘陵の東、栃尾地域の南東方面には、越後山脈に属する標高1,537mの守門岳がそびえる一方、市域北側の寺泊地域では、日本海に面して約16kmの南北に伸びる海岸線を持つ。

このように長岡市の地形は、急峻な山岳地帯から丘陵・平野・海岸部へと連続し、非常に変化に富んでいる点に特徴がある。その地勢的な要因が、各地域に特有な歴史風土を生み出し、その独自性を現在に至るまで継承させているのである。



第1図 長岡市の位置

(2) 平成21年度調査の概要

平成21年度に長岡市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査は、総数で13件を数える。調査原因別に内訳を見ると、県営圃場整備事業に伴うものが7件で最も多く、公共施設建設が2件（保育園・地下駐輪場建設）、河川改修、国道整備、市道改良、デジタルテレビ中継局建設が各1件であった。このほか、諸開発に伴う工事立会いを11件実施している。本年度の特徴としては、NHKの大河ドラマ「天地人」放映に伴う観光施策（標柱設置・散策路整備等）に関連するものが目立ち、直江兼続ゆかりの与板城跡や、小国氏に関連するといわれている小国沢城跡に対し、合計5件の工事立会いをを行った。これとは対照的に、昨年度まで上位を占めていた携帯電話中継局建設に伴うものは1件も無く、原因となった開発の種類に変化が認められた。

つづいて、本年度の試掘・確認調査の結果について概観する。実施した13件の調査のうち、遺構や遺物が検出されたのは7件であった。このうち、市道改良に伴う大原C遺跡と地下自転車駐車場等建設に伴う長岡城跡については、平成21年度中に本調査を実施した。また、デジタルテレビ中継局建設に伴う飯塚原A遺跡は、遺構・遺物ともに希薄な分布を示し対象地も狭小であったことから、破壊される範囲を完掘・記録保存を行い調査を終了した。このほか、県営ほ場整備事業に伴う吉沢遺跡・坂谷遺跡は平成22年度に、河川改修事業に伴う浦反甫東遺跡は平成22年度以降に本発掘調査を行う予定である。

取り扱いが未確定のものとしては、県営ほ場整備事業が計画されている上岩田地区があげられる。対象

地区内には、周知の2遺跡（延命寺が原遺跡・延命寺城跡）のほか、今回新たに発見された延命寺北遺跡が所在する。このうち、台地西端に位置する延命寺が原遺跡は、昭和41年の第一次ほ場整備に伴い発掘調査が実施されている。この遺跡は、小国地域を代表する縄文集落のひとつだった可能性が高く、本遺跡の取り扱いについては、事業主体者である新潟県長岡地域振興局との協議を継続し、埋蔵文化財の保護に遺漏がないように努める必要がある。

第1表 平成21年度長岡市内確認・試掘・立会調査一覧（本書掲載の調査はゴシック体で示した）

地域	地区	調査原因	結果など
与板	与板城跡	軍旗設置	立会（遺構・遺物なし）
	与板城跡	ボイススピーカー設置	立会（遺構・遺物なし）
和島	八幡林遺跡	県営ほ場整備事業	確認 平安時代の溝・柱穴／土師器・須恵器 ※吉沢遺跡として新規登録 →平成22年度本発掘調査実施予定
	坂谷遺跡	県営ほ場整備事業	確認 土坑／土師器（古墳時代か）・砥石 →平成22年度本発掘調査実施予定
	坂谷金山遺跡	県営ほ場整備事業	確認（遺構・遺物なし）
	島崎地区	河川改修事業	試掘 平安時代の溝・土坑／土師器・須恵器等 →平成22年度以降本発掘調査予定
栃尾	浦萱場地区	県営ほ場整備事業	確認（遺物・遺構なし）
	栃倉遺跡	土砂採取	立会（遺物・遺構なし）
長岡	大原C遺跡	市道改良事業	確認 土師器多数 →平成21年度本発掘調査実施
	原山遺跡	災害復旧工事（急傾斜地崩壊防止）	立会（遺構・遺物なし）
	大宮地区	国道整備事業	試掘（遺構・遺物なし）
	馬高遺跡	農産物直売所建設	立会（遺構・遺物なし）
	長岡城跡	地下自転車駐車場等整備事業	確認 堀？／遺物なし →平成21年度本発掘調査実施
越路	飯塚原A遺跡	デジタルテレビ中継局建設工事	確認 縄文中期の土坑／土器など →調査完了
	午ノ新田地区	保育園建設事業	試掘（遺構・遺物なし）
	浦畑遺跡	公園整備	立会（遺構・遺物なし）
	浦畑遺跡	公園整備	立会（遺構・遺物なし）
	岩田遺跡	天然ガス関連事業	立会（遺構・遺物なし）
小国	小国北部地区	県営ほ場整備事業	試掘（遺構・遺物なし）
	小国西部地区	県営ほ場整備事業	試掘（遺構・遺物なし）
	上岩田地区	県営ほ場整備事業	試掘 溝・土坑／縄文中期～晩期の土器など →今後取扱い協議
	小国沢城跡	登城道整備	立会（遺構・遺物なし）
	小国沢城跡	標柱設置	立会（遺構・遺物なし）
	小国沢城跡	散策路整備	立会（遺構・遺物なし）



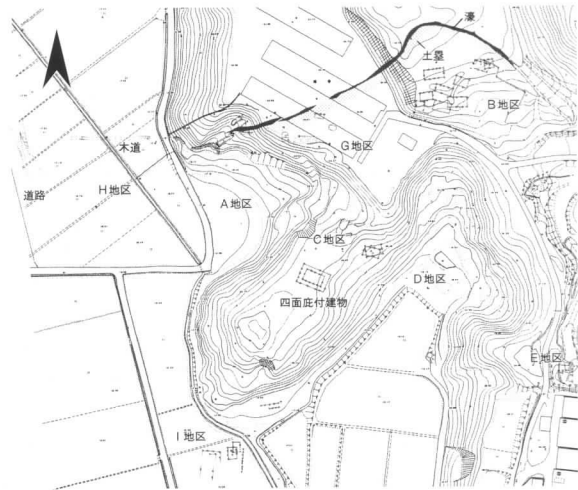
第2図 平成21年度調査位置図 (1/250,000)

2 八幡林遺跡確認調査

調査地	長岡市両高	調査面積	150㎡（対象面積2,110㎡）
調査期間	平成21年10月26日～29日	調査担当	丸山一昭

調査に至る経緯 和島地域の県営ほ場整備事業（保内地区）が実施されることに伴い、長岡市教育委員会では事業者の長岡地域振興局農林振興部と事業地内における遺跡の取扱いについて協議を行った。事業予定地内には、国史跡に指定された八幡林遺跡が存在するほか、周辺に未知の遺跡が存在することが予想された。このため、新規に掘削する排水路部分を中心に確認調査を実施するとともに、周知の遺跡の範囲外についても同様に調査を実施することとした。

遺跡の概要 八幡林遺跡は奈良・平安時代の官衙関連遺跡で、郷本川左岸の標高40m前後の丘陵とその周囲の水田に立地し、面積は約4万㎡である。地元では以前から周辺を「長者原」と呼び土器の出土が伝えられ「島崎長者原遺跡」として登録されていたが、平成2～5年度実施の発掘調査によって同一の遺跡であることが明確となった。主な検出遺構は、大型の掘立柱建物群（B地区）、道路跡（H地区）、四面庇付建物（C地区）、掘立柱建物群（I地区）などがある。出土遺物は郡司符や「沼垂城」木簡・墨書土器といった文字資料が多量に出土したほか、奈良三彩・帯金具・太刀外装具・皇朝銭・漆器の優品など



第3図 八幡林遺跡遺構模式図（1/4,000）

などが注目される。遺跡の存続時間は8世紀前半、及び9世紀前半から10世紀初頭である。遺跡の性格は8世紀前半が国レベルの官衙、9世紀前半から中葉が古志郡の郡司（大領）の館と考えられている。

調査の概要 調査対象地は、北側の小規模な沢地から南側の郷本川左岸に位置する沖積低地にかけて、2.4mほどの標高差をもって傾斜しており、現況は水田である。調査区は八幡林遺跡を中心に北側及び西側、南側に区分し、調査トレンチを24箇所設定した。調査はバックホウにより掘削し、人力により精査を行った（第4図）。この結果、北側調査区で遺構・遺物、西側調査区で遺物が検出された。

(1) 北側調査区（1T～12T） 丘陵裾部の4Tから9Tの水田を中心に奈良・平安時代の遺構・遺物が検出された。4Tでは耕作土直下に遺構面が確認され、土師器碗が出土した溝や土坑のほか柱穴が見られる。溝は幅約40cmで南北方向に延び、南側に位置する6Tに接続する可能性がある。6Tより一段低い8Tでは良好な遺物包含層が存在し、最も多くの遺物が出土した。4Tでは遺物包含層が確認されなかった。これは、昭和40年代の耕地整理の削平・整地によるものと考えられる。この時に発生した整地土は平成5年度H地区調査時に「耕地整理時盛土」と報告されており、今回の調査でも6T・9T・12Tを中心に確認されている。遺構・遺物の分布状況から、遺跡の中心は4Tから北側の丘陵緩斜面にあると考えられる。

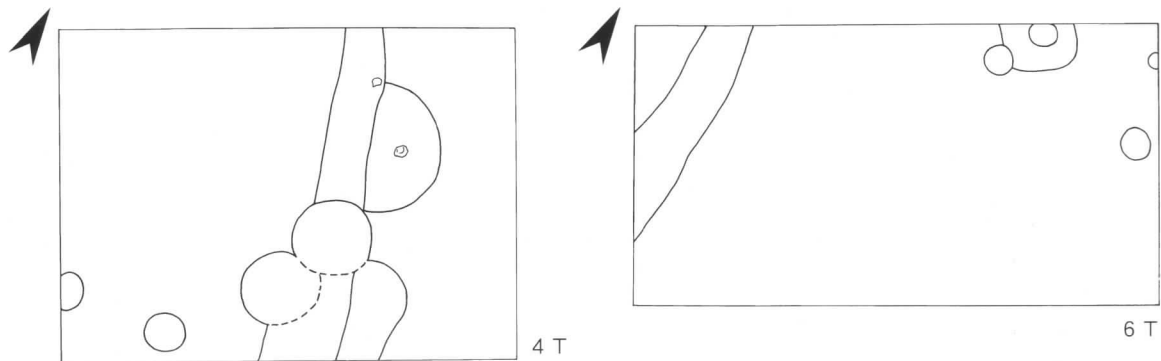
(2) 西側・南側調査区（13T～25T） 13Tから15T及び20T・21Tでは泥炭・腐植土が厚く堆積しており、奈良・平安時代には低湿地であったと考えられる。一方、18T・19Tでは青灰色粘土層を基盤とする比較的安定した微高地が確認された。遺構は検出されず、やや風化した遺物が数点出土したのみで、これは遺跡からの流れ込みと考えられる。南側の22Tから25T区では遺構・遺物ともに検出されなかった。



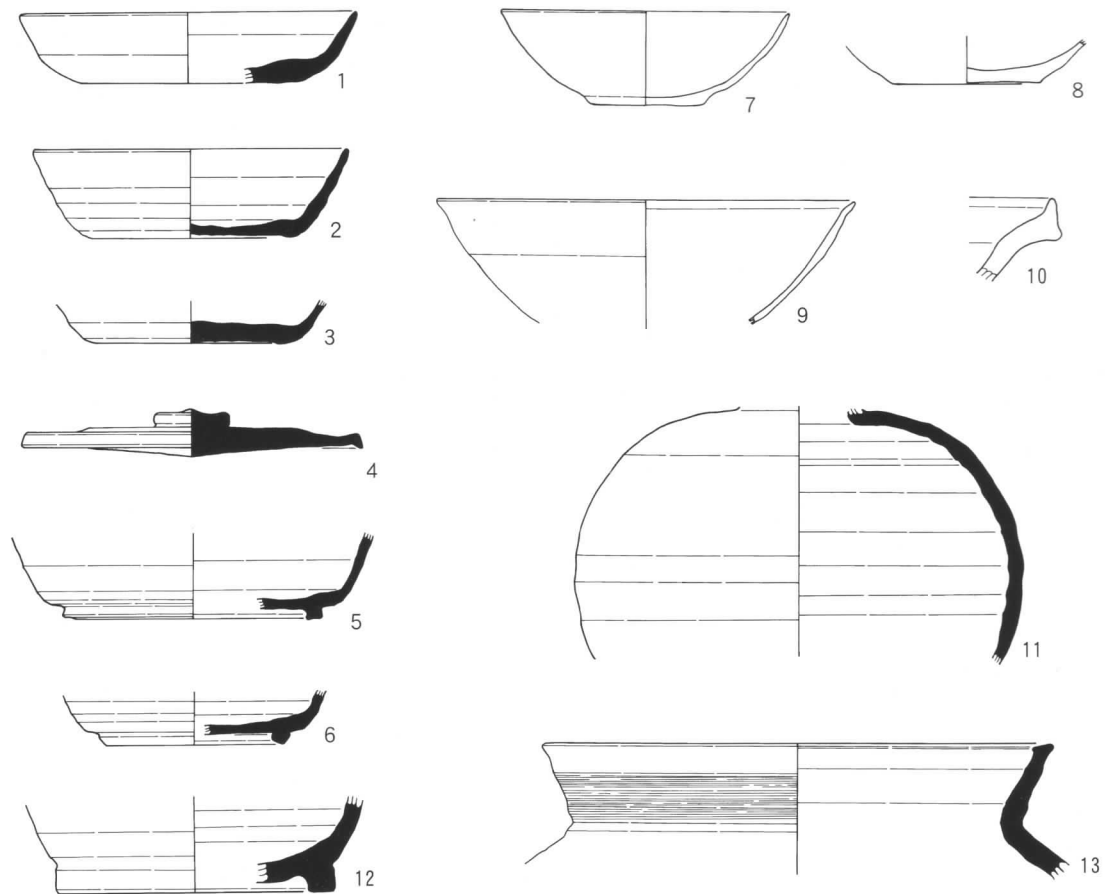
第4図 トレンチ位置図 (1/3,000) 及び土層柱状図 (1/30)

出土遺物 主要遺物を図示した(第6図)。遺物の出土地点は4 T (7・8)、6 T (2・9)、8 T (3～6・10・11)、9 T (1・12・13)で、所属時期は8世紀中葉及び9世紀後半を中心とする時期と考えられる。7～9は土師器無台椀である。7・9は口縁端部がやや外反する深身のものである。磨耗が著しいが底部に回転糸切りの痕跡が見られる。10はロクロ整形の土師器長甕の口縁部である。1～3は須恵器無台坏である。1は浅身のもので底部が丸く、つくりは厚手である。2はやや深身に薄手のつくりである。底部は回転ヘラ切りで器面にロクロ挽きの凹凸が残る。4は須恵器坏蓋で内面に「X」のヘラ描きがある。5・6は須恵器有台坏である。11～12は須恵器長頸瓶の体部・底部、13は須恵器甕の口縁部である。

まとめ 八幡林遺跡北側の丘陵裾部を中心に遺構・遺物が存在することが判明した。この遺跡を吉沢遺跡として埋蔵文化財包蔵地カードに登録し、開発にあたっては本調査が必要であることを事業者に通知した。



第5図 遺構平面図 (1/50)



第6図 出土土器実測図 (1/3)



写真1 南側調査区近景



写真2 12T完掘状況



写真3 北側調査区近景

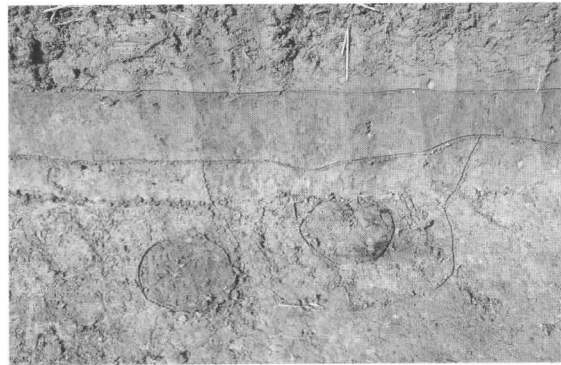


写真4 6T遺構検出状況



写真5 4T遺構検出状況

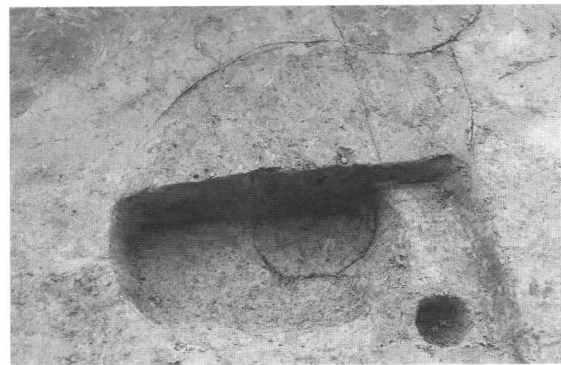


写真6 4T柱穴検出状況

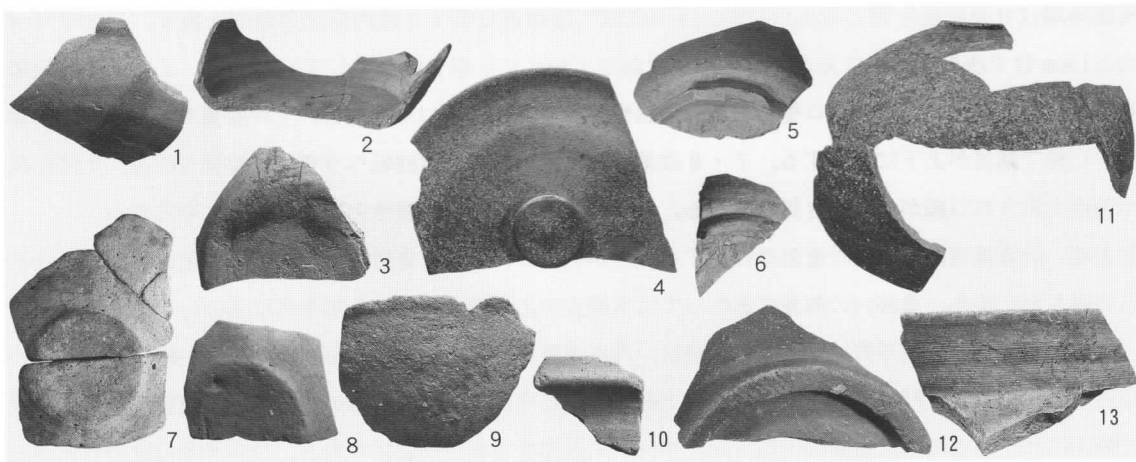


写真7 出土遺物

3 島崎地区試掘調査

調査地	長岡市島崎414-2ほか	調査面積	108㎡ (対象面積17,000㎡)
調査期間	平成21年11月24日～30日	調査担当	丸山一昭

調査に至る経緯 和島地域を流れる郷本川は笠抜山付近に源を発し、保内川、小島谷川、荒巻川を合流し寺泊地域の丘陵地帯を抜けて日本海に注ぐ、延長12.3kmの二級河川である。明治初期の大河津分水工事により西川と分断された旧島崎川を母体に、寺泊郷本地区から日本海に排水させるために掘削された人工河川でもある。排水機能が低い郷本川は市街地の島崎地区を流れることもあり、長年にわたり水害をもたらしてきた。水害の抜本的解決策として、島崎地区の河道を迂回させ新河道を開削する工事が現在実施されている。河道掘削予定地周辺には、川東遺跡や浦反甫遺跡など沖積平野の微高地に営まれた遺跡が存在する。このため未周知の遺跡がほかにも存在する可能性があることから、事業者の新潟県長岡地域振興局地域整備部と板維持管理事務所と協議を行い、調査予定地内の試掘調査を実施することとなった。

調査地の概要 調査地は西側の小島谷川合流点付近と東側の荒巻川の合流点付近に分かれる。調査地西側付近には平安時代の浦反甫遺跡が、東側付近には弥生・古代・中世の川東遺跡が存在し、いずれも水田下に埋没した自然堤防上に営まれた遺跡である。調査地の現況は水田等で標高は16.5m前後である。

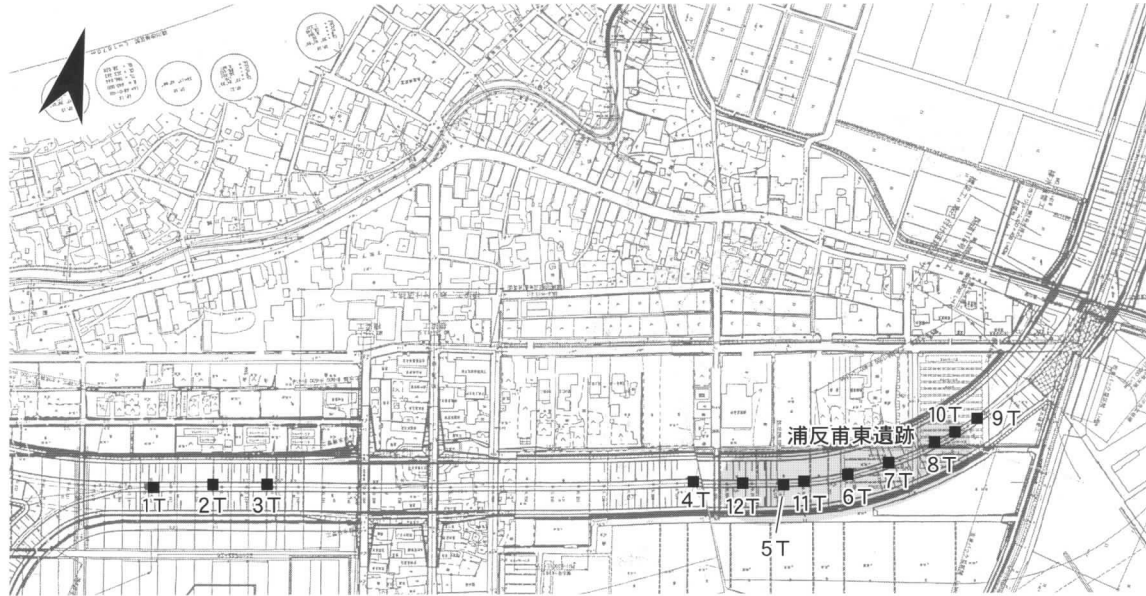
調査の結果 調査地西側の1Tから3Tでは、地表下70～100cmで青灰色粘土層となり、約1mの堆積が観察され、その下層は腐植土層となっている。いずれも、遺構・遺物は確認されなかった。

調査地東側の4Tから12Tでも同様に地表下70cm前後で青灰色粘土層が確認されている。12T・5T及び7T・8T・10Tでは、平安時代の遺構・遺物が検出された。5Tでは、炭化物集中部分の下層から内面黒色処理の土師器無台碗が出土したほか、完形に近い土師器無台碗2個体や漆器とみられる漆塗膜片が重なった状態で出土した。これらの遺物は、その出土状態から意図的な廃棄である可能性が高い。さらに、遺物の出土レベルから約15cm下層では、溝・ピット状の遺構が検出された。遺構確認面は赤～茶褐色を呈しており、遺構の判別は水田からの湧水に加え困難な状況であった。このため、遺物包含層と遺構確認面は、深度の違いでは確認できたが土層からの識別はできなかった。遺構・遺物の分布は一続きではなく、4T及び11T・6Tにおいて分断される。湿地帯や河川など地形的变化によるものと考えられる。7T・8T・10Tでは、遺物量は比較的小量であるが確実に遺構を伴うことが確認された。

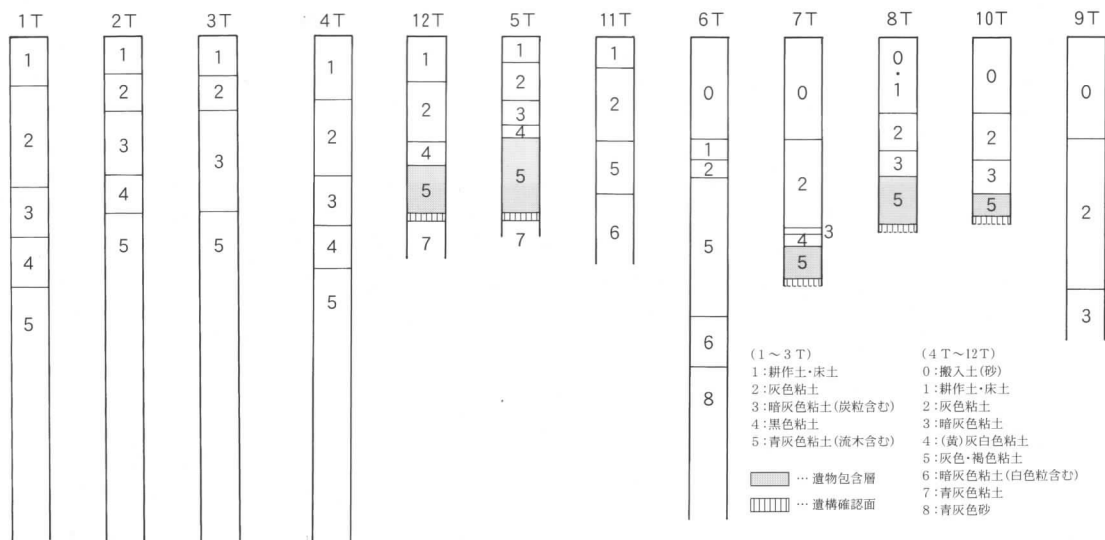
出土遺物 第9図に主要遺物を示した。遺物の出土地点は5T(1～5)・10T(11・12)・12T(8)で、所属時期は9世紀後半頃と考えられる。1～3は土師器無台碗で1は内面黒色処理を施す。口径は11cm台と15cm台で法量は大小に分かれる。1の底部は丁寧に切り離し痕を消している一方、2・3は回転糸切り無調整である。4はロクロ整形の土師器長甕である。5は非ロクロ整形の土師器甕である。6は長頸瓶の口縁で端部が上下に突出する。7・8は須恵器無台坏で底部は回転ヘラ切り痕が見られる。7は佐渡小泊産とみられ口縁がやや開き気味である。8は産地不明でロクロ挽きの凹凸が明瞭にみられる。

まとめ 調査地東側に新たな遺跡が存在することが判明し、浦反甫東遺跡として埋蔵文化財包蔵地カードに登録した。また、遺跡内の開発にあたっては本調査が必要であることを事業者へ通知した。

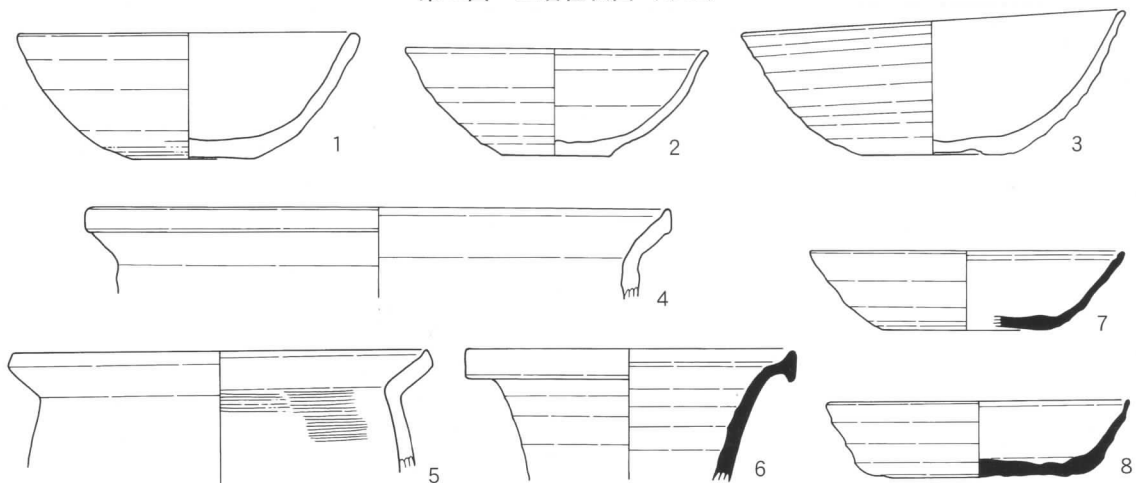
旧島崎川流域の沖積平野に分布する遺跡は、門新遺跡・上新田遺跡・川東遺跡など弥生時代後期あるいは古墳時代以降営まれ、いずれも自然堤防上の微高地に立地する。これらの遺跡では、門新遺跡発掘調査で検出された旧島崎川河道跡の川筋方向に平行して点在する状況が認められる。今回発見の遺跡も同様の立地状況であり、旧河川の存在を考慮に入れた調査が必要となろう。



第7図 トレンチ位置図 (1/6,000)



第8図 土層柱状図 (1/30)



第9図 出土土器実測図 (1/3)



写真8 調査地西側近景



写真9 1T完掘状況



写真10 調査地東側近景



写真11 12T土層断面



写真12 10T土層断面

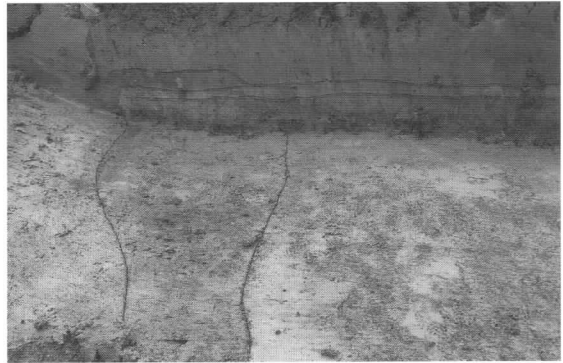


写真13 5T検出遺構

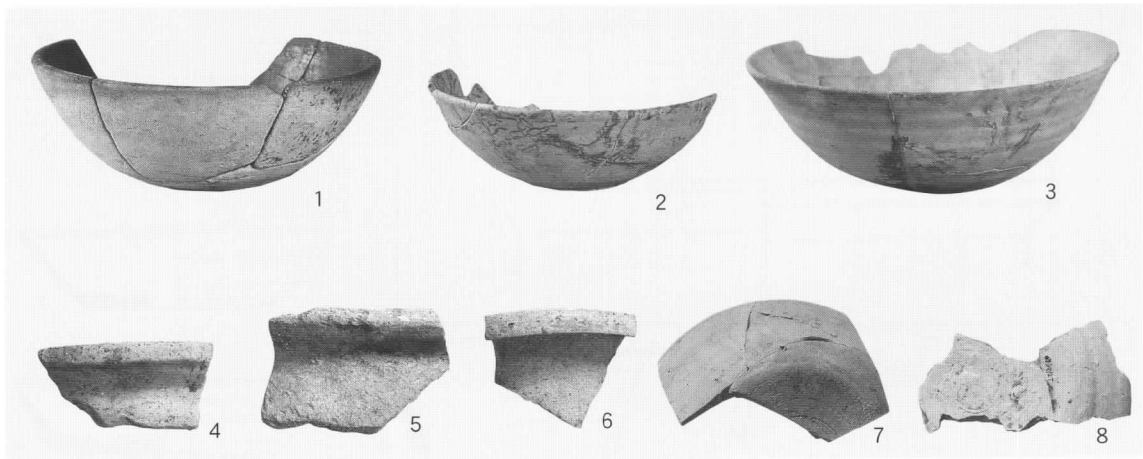


写真14 出土遺物

4 坂谷遺跡確認調査

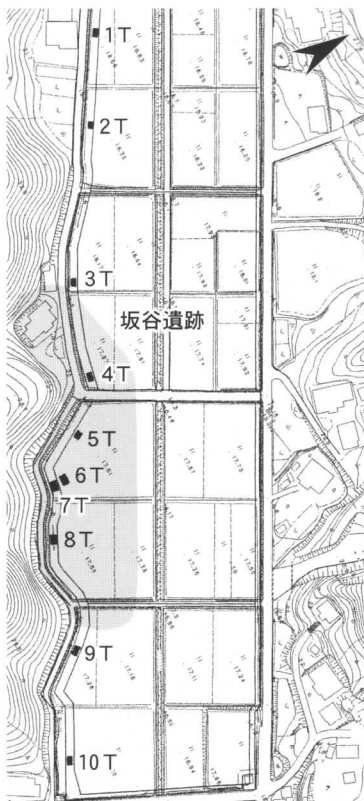
調査地	長岡市両高	調査面積	60㎡ (対象面積860㎡)
調査期間	平成21年10月30日	調査担当	丸山一昭

調査に至る経緯 和島地域の県営ほ場整備事業（保内地区）が実施されることに伴い、長岡市教育委員会では事業者の長岡地域振興局農林振興部と事業地内における遺跡の取扱いについて協議を行った。事業予定地内には、坂谷遺跡が存在するため、新規に掘削する排水路部分を中心に確認調査を実施した。

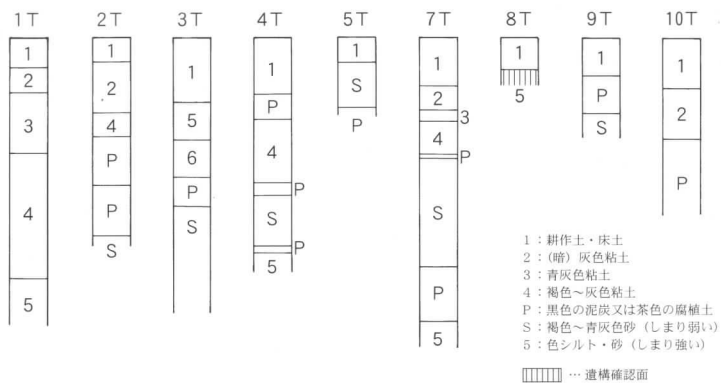
遺跡の概要 遺跡は郷本川左岸の丘陵裾部の水田面にある。未調査のため遺跡の詳細は不明であるが、弥生時代から古墳時代の土器や奈良・平安時代の須恵器・土師器等が寺村光晴氏によって採集されている。

調査の結果 2×3mの調査トレンチを排水路部分を中心に10箇所設定し、バックホウによる掘削を行った。この結果、8 Tの表土直下において不整形な遺構を確認した。遺構は大型・扁平な砂岩製砥石を伴い、上層では土師器小片が出土した。土師器の年代は、古墳時代と思われる。遺構確認面は固結が進んだ青灰色砂層で、遺物包含層は確認されなかった。遺跡は丘陵裾部にあり、以前の耕地整理の際に削平されたと推測される。砥石は砂岩製で、長さ22.8cm、幅15.2cm、厚さ1.8cmを測る。風化が著しい部分があるが、全面に平滑な面が認められる。8 T以外では遺構・遺物とも発見されなかった。これらのトレンチでは黒色の泥炭土或いは茶色の腐植土と青灰色砂層等が互層をなし厚く堆積していることから、湿地帯を形成する一方洪水を繰り返した状況が想像される。調査区は山裾に沿って設定されていることから、地形の変化が大きいことが予想され、現水田面での遺構分布はごく限られた範囲と考えられる。

以上のことから8 T周辺に遺跡が存在することが明らかになり、記録保存を目的とした本発掘調査が必要であることを事業者に伝えた。



第10図 トレンチ配置図 (1/4,000)



第11図 土層柱状図 (1/30)



写真15 8 T遺構検出状況

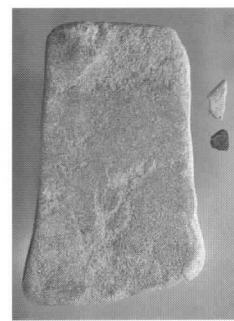


写真16 出土遺物

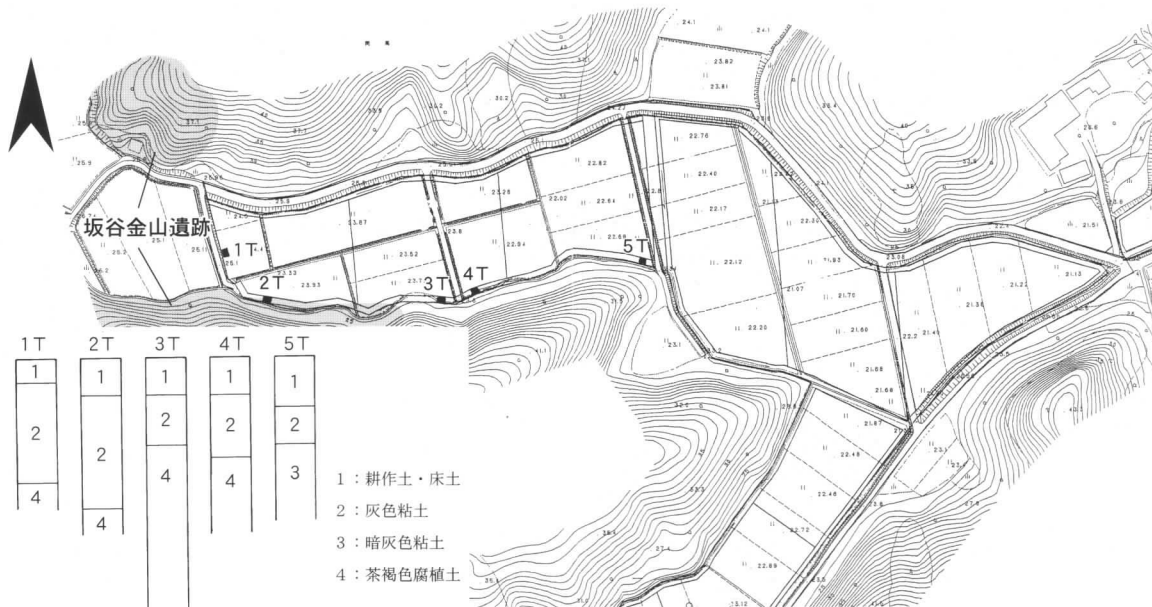
5 坂谷金山遺跡確認調査

調査地 長岡市両高 調査面積 11㎡ (対象面積700㎡)
 調査期間 平成21年11月4日～6日 調査担当 丸山一昭

調査に至る経緯 和島地域の県営ほ場整備事業（保内地区）が実施されることに伴い、長岡市教育委員会では事業者の長岡地域振興局農林振興部と事業地内における遺跡の取扱いについて協議を行った。事業予定地内には、坂谷金山遺跡が存在するため、新規に掘削する排水路部分を中心に確認調査を実施した。

遺跡の概要 坂谷金山遺跡は日本海海岸部に近接した東頸城丘陵東端部に位置する製鉄遺跡である。遺跡は東の郷本川に合流する沢に面した丘陵斜面に立地する。海岸部の寺泊山田に通じる農道の切り通しでは砂丘が形成されていることが確認でき、製鉄の原料となる砂鉄の供給は容易にできたと思われる。寺村光晴氏の調査によれば、数十 cm の厚さをもつ鉄床や木炭片等もみられ、羽口や鉄滓、須恵器なども出土した。

調査の結果 調査対象地にトレンチを5箇所設定した。上層では灰色粘土層が、下層では腐植土層が堆積していた。いずれも遺構・遺物は検出されなかった。このため、排水路掘削工事に支障はないと考えられることから、事業者はその旨を通知した。



第12図 トレンチ配置図 (1/4, 000) 及び土層柱状図 (1/30)



写真17 遺跡近景



写真18 4T土層断面

6 浦萱場工区確認調査

調査地	長岡市菅畑・栃堀	調査面積	120㎡ (対象面積 328,000㎡)
調査期間	平成21年11月9日～10日	調査担当	小林 徳

調査に至る経緯 平成19年に新潟県長岡地域振興局農業振興部と長岡市教育委員会は県営ほ場整備事業東谷地区浦萱場工区内の埋蔵文化財の取扱いについて協議をおこなった。教育委員会はほ場整備予定地内には多くの遺跡が確認されており、施工前に試掘・確認調査が必要な旨を事業者に伝えた。その後工区の縮小などがあったが、浦萱場地区内の工事が行われるのに先立ち改めて協議した結果、工区内にある赤助C遺跡を中心として、遺跡の確認・試掘調査を稲刈り後に行うこととなった。

調査地の概要 調査地は桑代山の裾野へ向かう場所にあり、刈谷田川右岸の河岸段丘との境目に位置する。この河岸段丘の先端部や平坦部には大川戸南遺跡や柿ノ木田遺跡などの縄文時代の包蔵地が確認されている。これまで炉跡や縄文時代中期を中心とした土器片や石鏃、石匙や土偶なども確認されており、周囲に縄文時代の大集落が存在していたと思われる。今回の工区にかかわる赤助C遺跡は奈良時代末から平安時代の土師器片が確認された包蔵地で、表採数も少なかったことが報告されている。

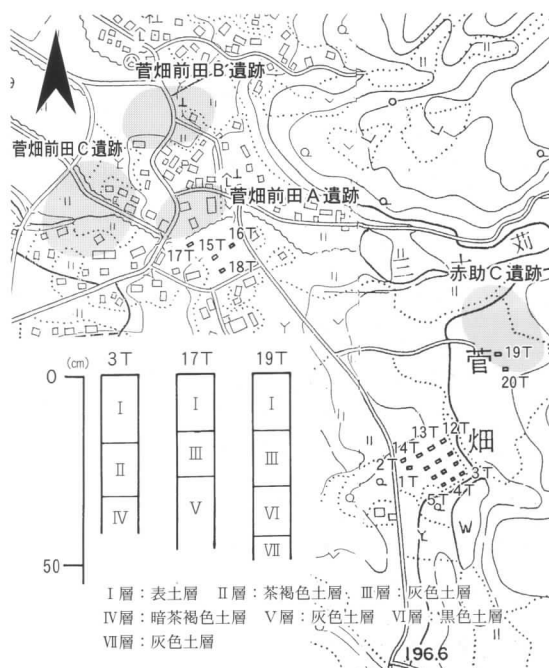
調査の結果 調査地は周辺に縄文時代の遺跡が広がっており、現在確認されている遺跡以外にも遺跡が存在する可能性があることから、埋蔵文化財包蔵地の赤助C遺跡のみでなく、調査地の平野部を中心に試掘・確認調査をバックホウを使用し実施した。結果、赤助C遺跡及びそれ以外の調査地点から遺物・遺構は検出されなかった。

まとめ 赤助C遺跡以外の地点については、耕作土層直下に地山層となる粗い石を多く含んだローム層が露出していたトレンチもあった。調査時において地元の方に話を聞くと、周辺の水田においてはもともと凹凸のある土地を平坦化して作られたものとのことであった。また、遺物も今回の調査地からではなく、集落の北側の平地で見つかったとのことであった。よって、縄文時代の遺跡は調査地内には存在しないと考えられる。

また、赤助C遺跡については、今回の調査の結果遺跡の痕跡がなかったことや、それまでの表採などにおいても遺物数が少ないことから、狭い範囲の小規模な生活痕であり、現在遺跡の一部にため池があることから、これらのため池の作成時に煙滅した可能性もある。



写真19 第17トレンチ土層状況



第13図 トレンチ配置 (1/2, 500) 及び柱状図 (1/20)

7 飯塚原 A 遺跡確認調査

調査地	長岡市飯塚259番地 2	調査面積	12.5㎡ (対象面積17.3㎡)
調査期間	平成21年10月21日	調査担当	新田康則

調査に至る経緯 平成21年7月6日、飯塚地内におけるデジタルテレビ中継局建設工事に係る埋蔵文化財の取扱いについての照会があった。開発地は飯塚原 A 遺跡に隣接するため、調査を実施して遺跡の広がりを確認することとした。

調査地の概要 調査地は信濃川左岸に形成された越路原 I 段丘面の北側西縁に位置している。平成21年5月25日に飯塚260番地の畑地において、耕作中に石囲炉が発見されている (写真21)。この際に出土した遺物はほぼ縄文時代中期中葉に帰属する。

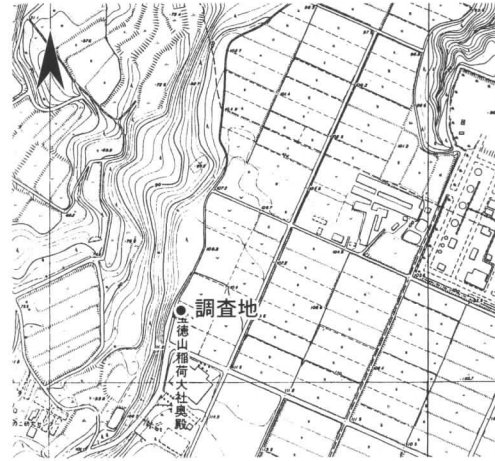
また、調査地周辺には上並松遺跡 (縄文時代中～後期)・中山遺跡 (縄文時代後～晩期)・朝日原遺跡 (縄文時代中～晩期) などが分布し、縄文時代の遺跡が集中する地域となっている。

調査の結果 鉄塔及び局舎基礎の設置予定の箇所にトレンチを設定し、調査を実施した。この結果、2 T において土坑と安山岩製の剥片、3 T において土坑と焼土、そして縄文土器と磨石が出土した (写真20)。

第16図1～4は、今回の確認調査で出土した遺物である。1～3は大木8b式並行の土器であろう。外反する口縁をもち、半截竹管状工具による半隆起線を横位区画として無文帯を設けている。口唇端に沈線が施されている点が特徴である。4は2に近似するが、半隆起線の断面が明瞭なカマボコ状であり、火炎土器の可能性も指摘できる。

一方、5～11は石囲炉が発見された際に出土したとされる土器である。5・6は無文土器の口縁部資料で、5は隆帯、6は沈線がめぐる。7・8は火炎土器の胴部片である。9はキャリパー形の深鉢の口縁部。11・12は縄文施文される一群である。

調査対象範囲のうち、遺跡のひろがり確認された範囲 (2・3 T) については、発掘調査を行い記録保存した。このため、本発掘調査は不要であると判断される。ただし工事に際しては、慎重工事するよう事業者要望するとともに、担当職員による工事立会いを実施する予定である。



第14図 調査地位置図 (1/10,000)



写真20 遺物出土状況 (3 T・SK 1)

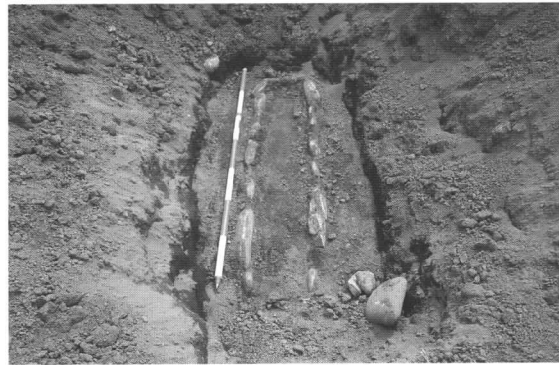
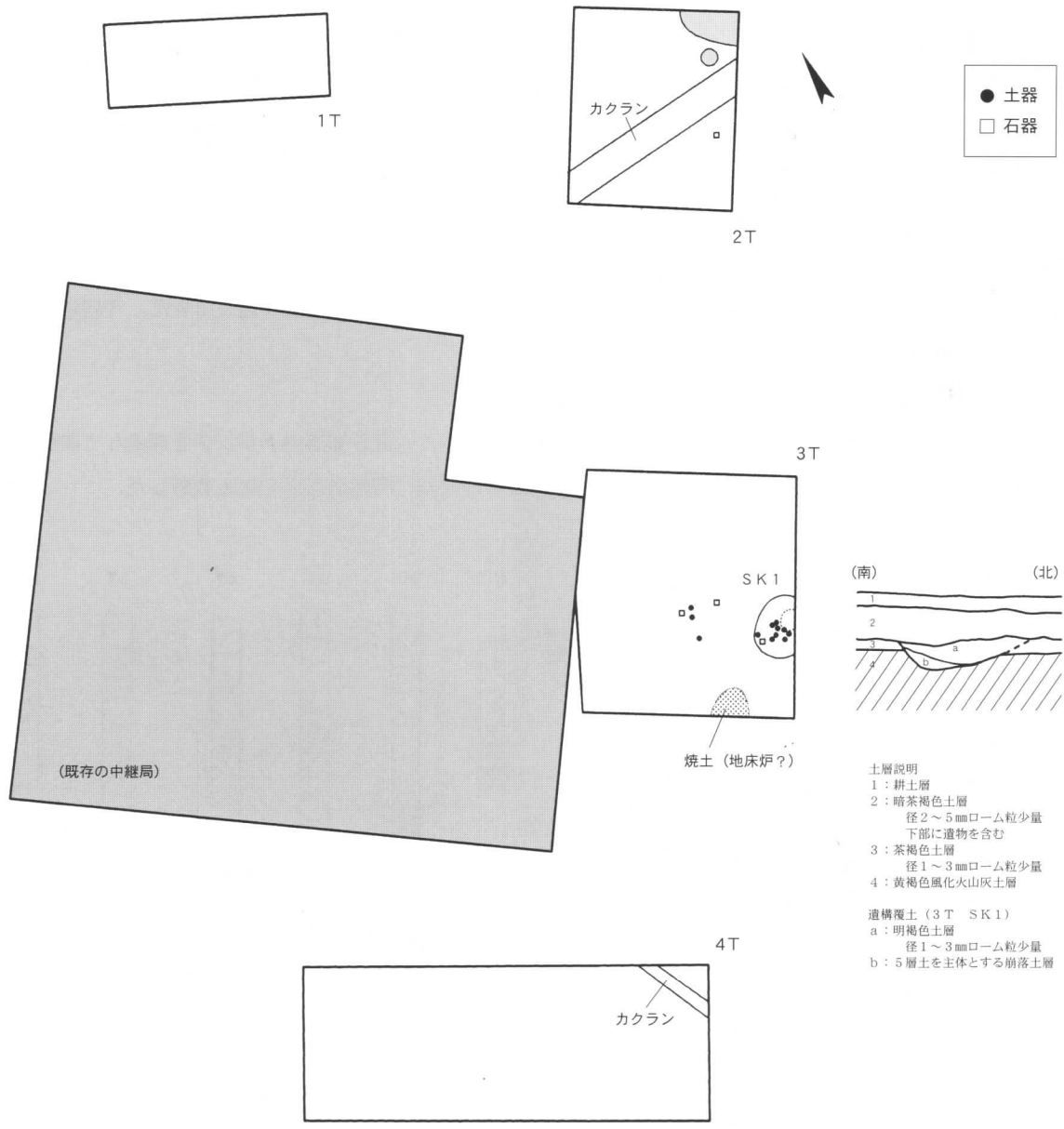
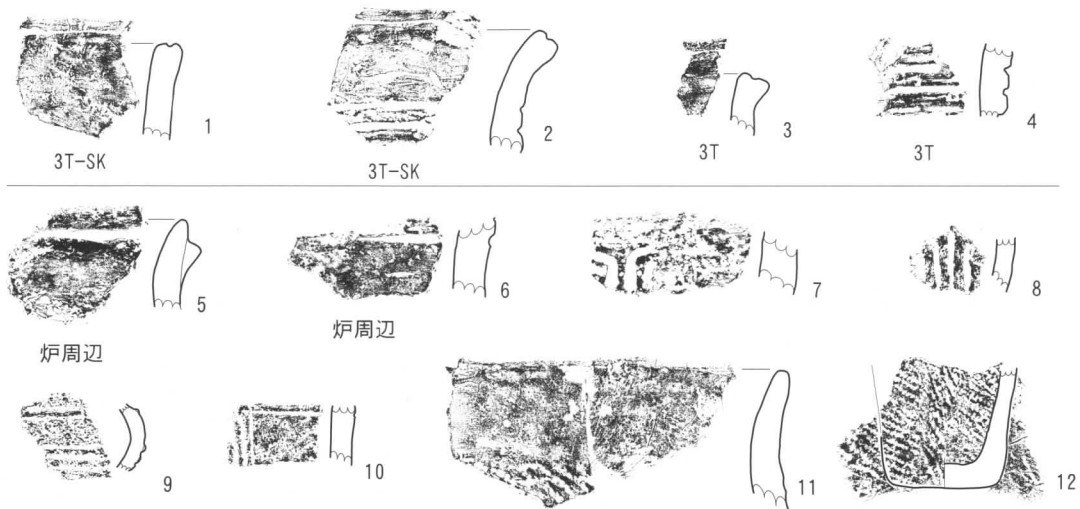


写真21 近隣の畑地で検出された石囲炉



第15図 調査トレンチ配置図 (1/60)・土層図 (1/40)



第16図 出土土器 (1/3)

8 小国北部地区試掘調査

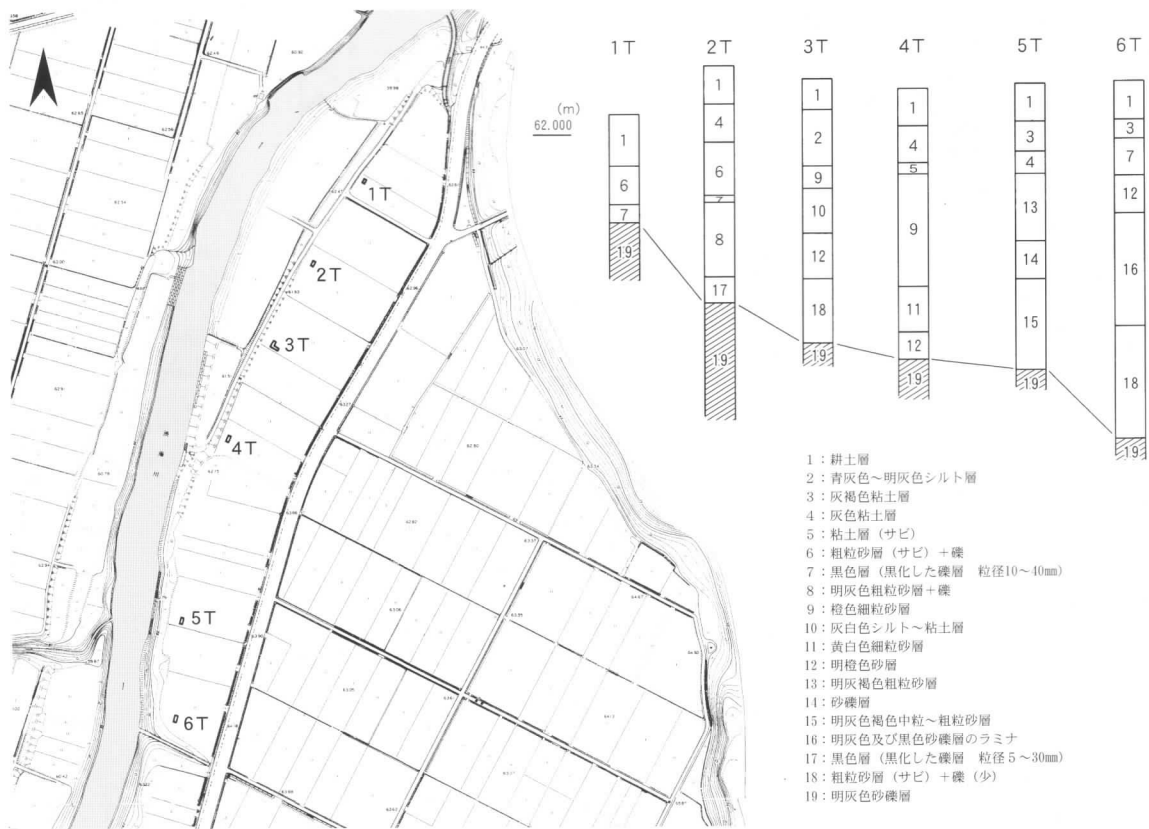
調査地 長岡市小国町七日町
調査期間 平成21年7月8日

調査面積 40.5㎡ (対象面積㎡)
調査担当 新田康則

調査に至る経緯 県営ほ場整備事業の計画に先立って実施した分布調査の結果を踏まえ、試掘調査が必要な区域を設定した。そして、平成16年度以降、工事予定に合わせて試掘調査を実施してきた。今回は平成21年度面工事予定地内において試掘調査を行った。

調査地の概要 調査地は浜海川右岸の沖積平野に位置する。

調査の結果 切土工法による工事が計画されている箇所を中心に合計6箇所のトレンチを設定して調査を行った。遺構・遺物は確認できなかったため、工事の着手には特に問題がないものと判断した。



第17図 トレンチ配置図 (1/5,000)・土層柱状図 (1/20)



写真22 調査地近景

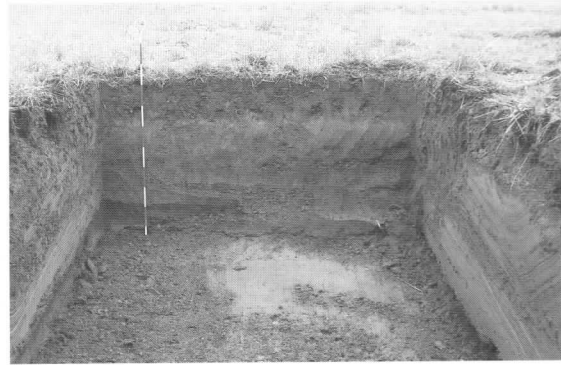


写真23 4T土層断面

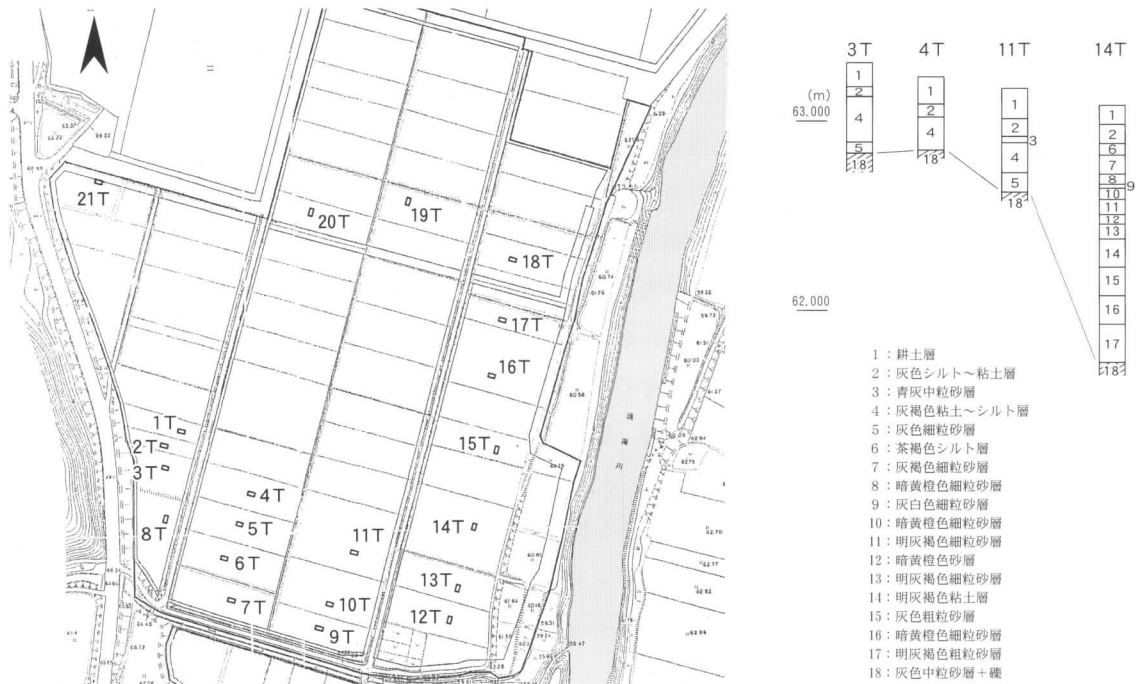
9 小国西部地区試掘調査

調査地 長岡市小国町上新田 調査面積 131.4㎡ (対象面積11,000㎡)
 調査期間 平成21年10月13日～10月14日 調査担当 新田康則

調査に至る経緯 県営ほ場整備事業の計画に先立って分布調査を実施した結果、少量ながら縄文土器片や土師器片が発見された。このため工区の全域を対象として、事業の進捗に合わせて試掘調査を実施してきた。平成19年度調査区では土師器片が、平成20年度調査区では近世の遺構・遺物が出土している。

調査地の概要 調査地は渋海川左岸の沖積地である。調査地である大字上新田は、享保年間における渋海川の激しい洪水により居村全てが移転し、廃村となったという記録が残されている。

調査の結果 切土工法が計画されている範囲を中心に21箇所のトレンチ調査を実施した。15Tで杭列を検出した。現地表面から約90cmの深さ、ちょうど層の境で杭の上部が切断されていたが、これは先述の洪水の痕跡と推測される。この他のトレンチにおいては遺構・遺物を検出することはできず、以上の結果から、埋蔵文化財保護行政上の更なる措置は必要ないものと判断し、事業者はその旨を伝えた。



第18図 トレンチ配置図 (1/4,000)・土層柱状図 (1/40)



写真24 調査地近景

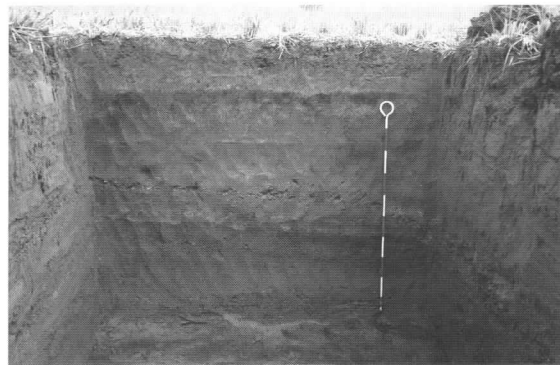


写真25 14T土層断面

10 上岩田地区試掘調査

調査地	長岡市小国町上岩田	調査面積	402.6㎡(対象面積110,000㎡)
調査期間	平成21年10月1日～9日	調査担当	新田康則

調査に至る経緯 県営ほ場整備事業上岩田地区の計画に伴い、事業地内における遺跡の取扱いについて新潟県地域振興局農村計画課と協議を行った。事業計画地には延命寺が原遺跡（縄文前～晩期）・浦田遺跡（平安）などの遺跡が分布しており、さらに未発見の遺跡が存在する可能性があるため、遺跡の包蔵状況を確認し、その結果を事業計画に反映することとした。

事業計画地は渋海川右岸の約60haに及ぶが、今年度は東側の台地で調査を実施した。

調査地の概要 調査地は渋海川右岸の段丘上に位置する。この段丘面の南縁には縄文時代晩期の集落遺跡として名高い延命寺が原遺跡が立地する。この遺跡は土地改良事業に伴い、昭和41年8月に小国町教育委員会によって発掘調査が実施されており、竪穴住居跡から得られた縄文時代晩期中葉の土器群は中越地方を代表する内容をもっている。延命寺が原遺跡の東には延命寺城跡が位置する。小国氏の城館跡ともいわれ、土塁などが残されていたという伝承もあるが、現況ではその様子を窺うことはできない。

調査の結果 45箇所の特レンチを設定して調査を実施した。その結果、延命寺が原遺跡がより広い範囲にわたって比較的良好に遺存すること、台地中央に貫入する谷の谷頭に縄文時代の小規模な遺跡（43・44T：延命寺北遺跡）が存在することを確認した。一方、延命寺城跡の範囲では、溝状遺構や土坑を確認したものの、近世以降の陶磁器が少量出土したに過ぎず、その様相を明らかにすることはできなかった。

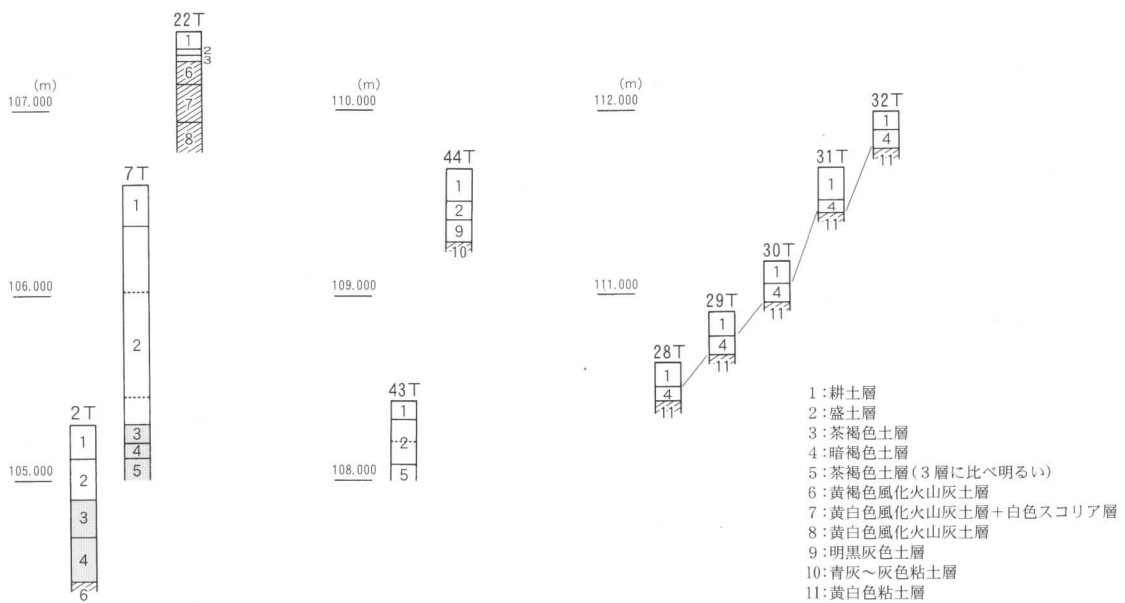
これら遺跡の包蔵を確認した範囲については、事業計画の進展に合わせ、その取扱いについて協議を進めて適切な保護措置をとる予定である。

出土遺物 縄文時代の遺物を第21図に示した。1～30・33～36は延命寺が原遺跡、31・32は延命寺北遺跡からの出土である。1～7は2T出土資料である。1は中期中葉の深鉢。2～4、6・7は後期初頭の土器群である。2は城之腰類型の口縁部資料で、口唇端部に沈線が施されている。5は南三十稲場式土器であろうか。8～24は3T出土資料である。この特レンチから出土した土器は中期初頭から晩期中葉に及んでおり、他の特レンチと比して時期幅をもつ。8は五領ヶ台Ⅱb式並行の土器、11は沖ノ原式、13は三十稲場式、15・16は南三十稲場式、19は瘤付土器である。20～24は「朝日式」に含まれる晩期中葉の在地区粗製深鉢である。25は6Tから出土した三十稲場式の刺突文土器。26～30は7T出土資料である。26～29は竹管状工具で施文される一群で、中期初頭～前葉に位置づけられる。28では三角形印刻文が対向して施されおり興味深い。30は口縁に網目状捺糸文を施し、以下を無文帯とする。晩期後葉に位置づけられよう。31は少量の繊維痕が認められることなどから、現時点では前期前葉に位置づけたい。32はゆるやかな波状を呈する口縁をもち、半截竹管状工具による沈線文が描かれているが、全容は判然としない。

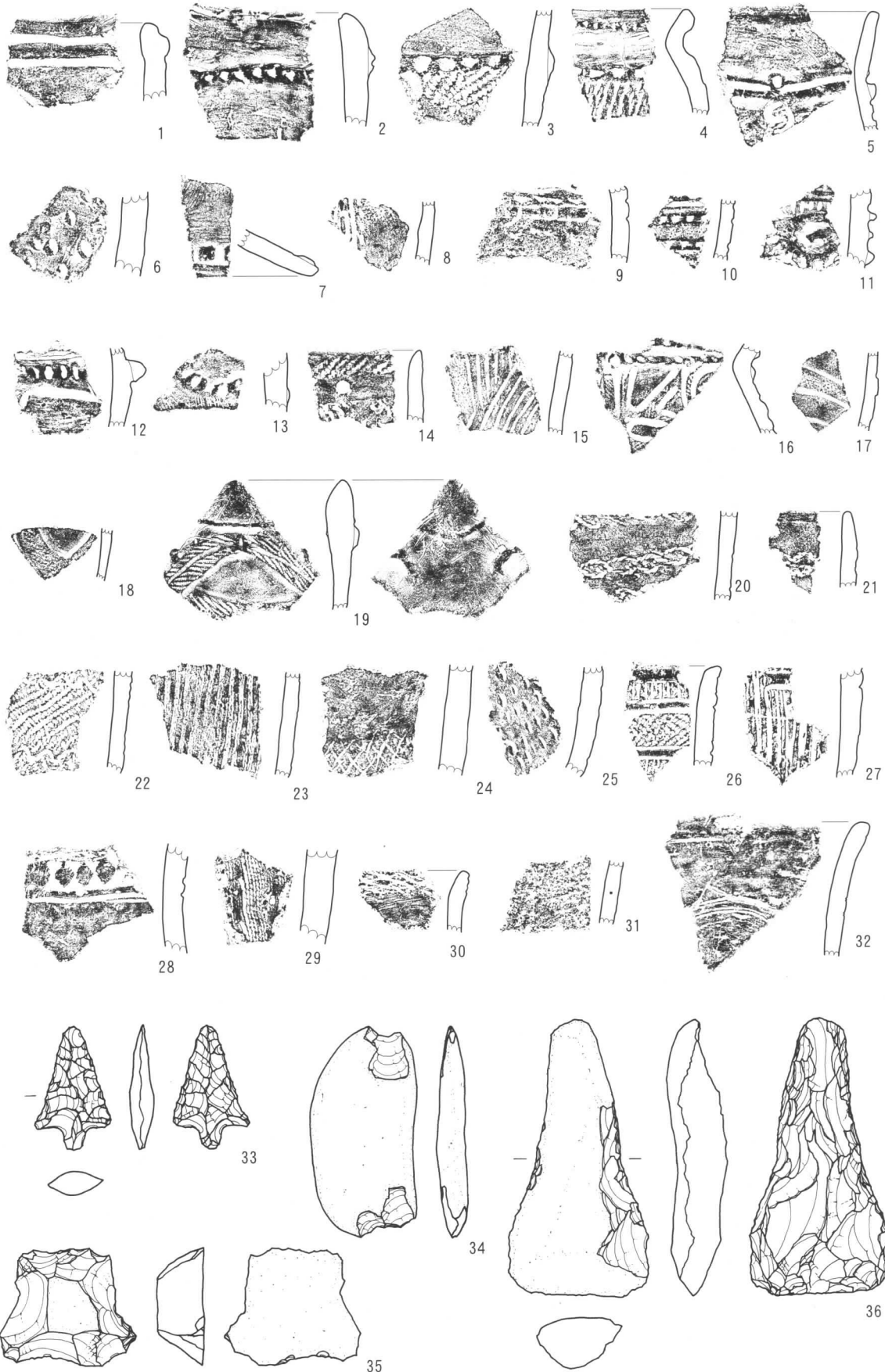
33は鉄石英製の有茎石鏃である。2T出土。34は石錘で頁岩の扁平礫を素材とする。3T出土。35は頁岩製の板状石器である。3T出土。36は2Tから出土した頁岩製の打製石斧である。刃部を含め、実測図正面側に大きく礫面を残している。



第19図 調査地位置図 (1/50,000)



第20図 トレンチ配置図 (1/5,000)、土層柱状図 (1/40)



第21図 出土遺物 (1/3 33のみ2/3)

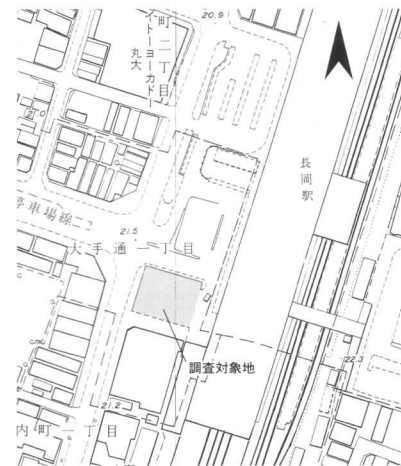
11 長岡城跡確認調査

調査地	長岡市大手通1丁目	調査面積	110.6㎡ (対象面積1,250㎡)
調査期間	平成21年9月16日・25日	調査担当	鳥居美栄

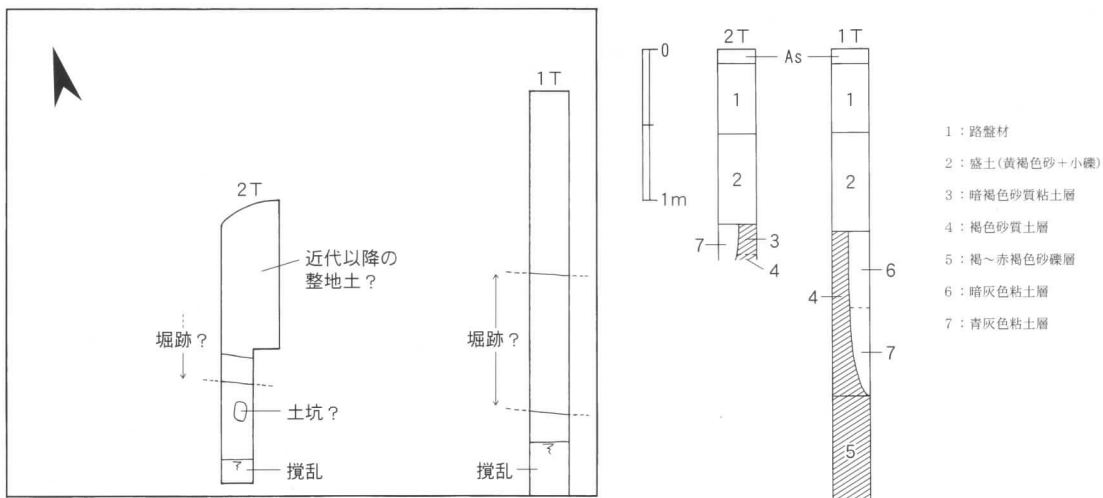
調査に至る経緯 長岡市の中心市街地再整備事業の検討に伴い、JR長岡駅大手口駅前広場の再整備が計画された。事業地は長岡城跡の範囲内であることから、平成18年8月、市都市整備部交通政策課と協議を開始した。地下自転車駐車場予定地（協議当時、自家用車駐車場として利用）については過去にビルなどが建設されておらず、確認調査により遺跡の残存が判明した場合は工事工程に沿う形で発掘調査を行うこととした。長岡駅地下通路改築・延伸部分など、整備施設の規模や範囲によっては工事立会とすることとした。現在のバスターミナル部分についてはその整備事業に先立つ調査が昭和59年度に実施済みである。

調査地の概要 信濃川右岸の沖積地内にあり、標高は約21mである。中世には町屋が営まれ、17世紀初頭から長岡城及び城下町が築かれた。北越戊辰戦争によって城と城下町は焼失し、近代以降に進められた市街化により現地表では土塁や堀は確認できない。絵図面等からは、調査地は本丸の南西部分と推定されている。なお、調査地の南東に隣接する駅地下通路では、昭和30年の工事の際に近世陶磁器類や瓦破片などが採集されている。

調査結果 既存の自家用車駐車場の解体除却に合わせて確認調査を行った。2箇所の調査トレンチを設定し、バックホウで掘削を行った。現地表から約1.3mの深さにおいて地山と見られる暗褐色～褐色砂質土層と暗灰～青灰色粘土の落込みを確認した。暗灰～青灰色粘土は約1mの堆積がある。いずれのトレンチからも近世以前の遺物は出土せず、遺物包含層も確認されなかった。検出した落込みは本丸南堀の推定位置よりも北にあり、堀幅の規模などからも堀跡とすることには疑問がある。しかし、昭和59年度の調査での堀跡と見られる青灰色粘土層と検出深度などが類似しており、堀跡の可能性があると判断した。事業担当課と協議の結果、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。



第22図 調査地位置図 (1/5,000)



第23図 調査地平面図 (1/500) 及び土層柱状図 (1/50)

参考文献

青柳孝司

2004 『長岡城を歩く』 新潟日報事業社

石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

1988 『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 報告編・資料編

小国町教育委員会

1969 『縄文時代の延命寺が原』 小国町

小国町史編集委員会

1976 『小国町史』 本文編 牧野功平（小国町）

越路町

1988 『越路町史』 資料編1 原始・古代・中世 越路町

長岡市

1992 『長岡市史』 資料編1 考古 長岡市

2007 『長岡市総合計画 基本構想 前期基本計画』

長岡市教育委員会

1997 『長岡城跡発掘調査報告書 大手通り地下駐車場建設』 長岡市教育委員会

2006 『平成17年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2007 『平成18年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2008 『平成19年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2009 『平成20年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

和島村

1996 『和島村史』 資料編I 自然・原始古代・中世・文化財 和島村

和島村教育委員会

1992 『和島村埋蔵文化財調査報告書第1集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会

1993 『和島村埋蔵文化財調査報告書第2集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会

1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会

1995 『和島村埋蔵文化財調査報告書第4集 門新遺跡』 和島村教育委員会

1996 『和島村埋蔵文化財調査報告書第5集 門新遺跡 外割田地区』 和島村教育委員会

2005 『和島村埋蔵文化財調査報告書第16集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会

2005 『和島村埋蔵文化財調査報告書第17集 門新遺跡谷地地区II』 和島村教育委員会

渡邊裕之

2002 「『朝日式土器』の再検討—延命寺ヶ原遺跡出土土器の検討をとおして—」『新潟県立歴史博物館研究報告』第3号 45—71頁

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅういちねんどながおかしないいせきはつちつちようきほうこくしょ						
書名	平成21年度長岡市内遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	丸山一昭・田中靖・鳥居美栄・新田康則・小林徳						
編集機関	長岡市教育委員会						
所在地	〒940-0072 新潟県長岡市柳原町2番地1						
発行年月日	2010年3月19日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	東経			
はちまんばやしせいせき 八幡林遺跡	ながおかししまぎき1ばんちほか 長岡市島崎字1番地ほか	152021	1002	373441 1384540	20091026 ～20091027	12.0㎡	県営ほ場整備事業
よしざわいせき 吉沢遺跡	ながおかしりょうたか1036ばんちほか 長岡市両高1036番地ほか	152021	1307	373451 1384520	20091028 ～20091029	48.0㎡	県営ほ場整備事業
さかやいせき 坂谷遺跡	ながおかしりょうたか149ばんちほか 長岡市両高149番地ほか	152021	829	373447 1384456	20091030 ～20091030	60.0㎡	県営ほ場整備事業
さかやかなやまいせき 坂谷金山遺跡	ながおかしりょうたか23ばんちほか 長岡市両高23番地ほか	152021	855	373456 1384406	20091104 ～20091106	11.3㎡	県営ほ場整備事業
うらたんぼひがしいせき 浦反甫東遺跡	ながおかししまぎき414ばんち2ほか 長岡市島崎414番地2ほか	152021	1308	373443 1384629	20091124 ～20091130	108.0㎡	河川改修事業
あかすけしーいせき 赤助C遺跡	ながおかしすがばたけほか 長岡市菅畑ほか	152021	678	374523 1390294	20091009 ～20091010	120.0㎡	県営ほ場整備事業
いづかほらえーいせき 飯塚原A遺跡	ながおかししいづか259ばんち2ほか 長岡市飯塚259番地2ほか	152021	1254	372314 1384551	20091021 ～20091021	12.5㎡	デジタルテレビ中継局建設
えんめいじがはら 延命寺が原遺跡	ながおかしおぐにまちかみいわたあざえんめいじ1715ばんち1ほか 長岡市小国町上岩田字延命寺1715番地1ほか	152021	548	371649 1384236	20091001 ～20091006	76.0㎡	県営ほ場整備事業
えんめいじじょうあと 延命寺城跡	ながおかしおぐにまちかみいわたあざえんめいじ2525ばんちほか 長岡市小国町上岩田字延命寺2525番地ほか	152021	592	371650 1384248	20091005 ～20091007	117.1㎡	県営ほ場整備事業
えんめいじきた 延命寺北遺跡	ながおかしおぐにまちかみいわたあざえんめいじ1488ばんちほか 長岡市小国町上岩田字延命寺1488番地ほか	152021	1306	371700 1384246	20091009 ～20091009	10.6㎡	県営ほ場整備事業
ながおかしじょうあと 長岡城跡	ながおかしおおてどおり1ちようめ 長岡市大手通1丁目	152021	146	372648 1395110	20090916 ・20090925	110.6㎡	市街地再整備事業
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
はちまんばやしせいせき 八幡林遺跡	遺物包含地	奈良～平安	なし	須恵器・土師器			
よしざわいせき 吉沢遺跡	遺物包含地	奈良～平安	溝・土坑	須恵器・土師器			
さかやいせき 坂谷遺跡	遺物包含地	古墳	土坑	石製品・土師器			
さかやかなやまいせき 坂谷金山遺跡	遺物包含地	不明	なし	なし			
うらたんぼひがしいせき 浦反甫東遺跡	遺物包含地	平安	土坑・溝	須恵器・土師器			
あかすけしーいせき 赤助C遺跡	遺物包含地	奈良～平安	なし	なし			
いづかほらえーいせき 飯塚原A遺跡	遺物包含地	縄文	土坑	縄文土器・石器			
えんめいじがはら 延命寺が原遺跡	遺物包含地	縄文	土坑	縄文土器・石器			
えんめいじじょうあと 延命寺城跡	城館跡	中世	溝・土坑	なし			
えんめいじきた 延命寺北遺跡	遺物包含地	縄文	土坑	縄文土器			
ながおかしじょうあと 長岡城跡	城館跡	近世	堀	なし			

平成21年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

平成 22 (2010) 年 3 月 19 日 印刷

平成 22 (2010) 年 3 月 19 日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 あかつき印刷株式会社
